

立志社

東洋大日本国国憲案

日本国国憲案

第一編 国家大則及権限

第一章 国家ノ大則

第二章 国家ノ権限

第二編 聯邦大則及権限

竝ニ各州ト相関スル法

第一章 聯邦ノ大則

第二章 聯邦ノ権限竝ニ各州ト相関スル法

第三編 各州ノ権限及聯邦ト相関スル法

第四編 日本国民及日本人民ノ自由權利

第五編 皇帝貴族及摂政

第一章 皇帝ノ威嚴

第二章 皇帝ノ権限

第三章 皇帝及皇帝ノ継承

第四章 皇帝ノ即位

第五章 皇帝ノ婚姻

第六章 皇帝ノ歳俸

第七章 皇帝ノ年齢

第八章 摂政

第九章 皇族

第六編 立法権ニ関スル諸規則

第一章 立法権ニ関スル大則

第二章 立法権ノ権限

第三章 立法議員権力

第四章 議員選挙及び被非選挙ノ法

第五章 議員ノ任期

第六章 議員償給費

第七章 議員ノ制限

第八章 立法会議ノ時日

第九章 立法会議閉收散

第十章 会議ノ規則

第十一章 立法院ノ決議ヲ国法ト為スニ就テ皇帝ト相関スル規則

第七編 行政権ニ関スル諸則

第一章 行政権ニ関スル大則

第二章 行政官

第三章 行政府

- 第四章 統計局
- 第八編 司法権に二関スル大即
 - 第一章 司法権に二関スル大即
 - 第二章 法官
 - 第三章 法
 - 第四章 裁判
 - 第五章 高等法院
- 第九編 土地
- 第十編 租税
- 第十一編 国金
- 第十二編 財政
- 第十三編 会計
- 第十四編 用軍兵
- 第十五編 外国人帰化
- 第十六編 特法学事
- 第十七編 鉄道電信陸路水利
- 第十八編 憲法改正
- 附則

日本国国憲案

第一編 国家大則及権限

第一章 国家ノ大則

- 第一条 日本国ハ日本国憲法ニ循テ之ヲ立テ之ヲ持ス
- 第二条 日本国ニ一立法院一行政院一司法庁ヲ置ク憲法其規則ヲ設ク
- 第二章 国家ノ権限
- 第三条 日本ノ国家ハ国家政府ヲ達成センカ為メニ必要ナル物事ヲ備フルヲ得
- 第四条 日本国ハ外国ニ対シテ交際ヲ為シ条約ヲ結フヲ得
- 第五条 日本国家ハ日本各人ノ自由權利ヲ殺滅スル規則ヲ作りテ之ヲ行フヲ得ス
- 第六条 日本国家ハ日本国民各自ノ私事ニ干渉スルコトヲ施スヲ得ス

第二編 聯邦ノ大則及権限並ニ各州ト相関スル法

第一章 聯邦ノ大即

- 第七条 日本武蔵州 山城州 大和州 和泉州 摂津州 伊賀州 伊勢州 志摩州 尾張州
- 三河州 遠江州 駿河州 甲斐州 伊豆州 相模州 安房州 上総州 下総州 常陸州
- 近江州 美濃州 飛驒州 信濃州 上野州 下野州 岩代州 盤城州 陸前州 陸中州
- 陸奥州 羽前州 羽後州 若狭州 越前州 加賀州 能登州 越後州 越中州 佐渡州
- 丹後州 但馬州 因幡州 伯耆州 出雲州 石見州 隱岐州 播磨州 美作州 備中州

安芸州 周防州 長門州 紀伊州 淡路州 阿波州 讃岐州 伊予州 土佐州 筑前州
筑後州 豊前州 豊後州 肥前州 肥後州 日向州 大隈州 薩摩州 豊岐州 対馬州
琉球州ヲ聯合シテ日本聯邦トナス

第八条 日本聯邦ニ大政府ヲ置キ聯邦ノ政ヲ統フ

第九条 日本聯邦ハ日本各州ニ対シ其州ノ自由独立ヲ保護スルヲ主トスヘシ

第十条 日本国内ニ於テ未ダ独立ノ州ヲ為サザル者ハ聯邦之ヲ管理ス

第十一条 日本聯邦ハ日本各州ニ対シ外国ノ侵寇ヲ保禦スルノ責アリ

第二章 聯邦ノ権限竝ニ各州ト相關スル法

第十二条 日本聯邦ハ日本各州相互ノ間ニ関シテ規則ヲ立ツルコトヲ得

第十三条 日本聯邦ハ日本各州ニ対シテ其一州内各自ノ事件ニ干涉スルヲ得ス其州内郡邑等ノ定

制ニ干涉スルヲ得ス

第十四条 日本聯邦ハ日本各州ノ土地ヲ奪フヲ得ス其州ノ肯テ諾スルニ非サレハ一州ヲモ廢スルヲ得ス

第十五条 憲法ニ非レバ日本諸州ヲ合割スルヲ得ス諸州ノ境界ヲ變スルヲ得ス

第十六条 日本国内ニ於テ新ニ州ヲ為スニ就テ日本聯邦ニ合セントスル者アルトキハ聯邦ハ之ヲ妨クヲ得ス

第十七条 外国ト諸同盟約ヲ結フノ権國家ノ体面ヲ以テ諸外国ト交際ヲ為スノ権ハ聯邦ニアリ

第十八条 聯邦中ニ用フル度量衡ヲ制定スルノ権ハ聯邦ニアリ

第十九条 通貨ヲ造ルノ権ハ聯邦ニアリ

第二十条 海關稅ヲ定ルノ権ハ聯邦ニアリ

第二十一条 宣戰講和ノ権ハ聯邦ニアリ

第二十二条 日本聯邦ハ聯邦ノ管スル処ニ燈船燈台浮標ヲ設クルヲ得同種類ノ者ハ順次揚クルヲ得

第二十三条 日本聯邦ハ郵便ヲ管理スルヲ得

第二十四条 日本聯邦ハ特ニ聯邦ニ関スル事物ノ為メニ諸法律規則ヲ定ムルヲ得

第二十五条 日本聯邦外國貨幣及尺度權衡ノ聯邦内ニ通用スルモノニ地位ヲ定ムルヲ得

第二十六条 日本聯邦ニ常備軍ヲ設置スルヲ得

第二十七条 日本中一州ト一州ト相互ノ間ニ渉ル争訟ハ聯邦之ヲ審判ス

第二十八条 日本各州ト外國使節ト公務ノ往復アルトキハ聯邦行政政府ヲ經由ス

第三編 各州ノ権限竝ニ聯邦ト相關スル法

第廿九条 日本各州ハ日本聯邦ノ大ニ抵触スルモノヲ除クノ外皆独立シテ自由ナルモノトス何等

ノ政体政治ヲ行フトモ聯邦之ニ干涉スルコトナシ

第三十条 日本ノ各州ハ外国ニ向ヒ國家ノ權利体面ニ関シ國土ニ関スル條約ヲ結フコトヲ得ス

第三十一条 日本各州ハ外国ニ向ヒ聯邦竝ニ他州ノ權利ニ関セサル事ニ限り經濟上ノ件警察上ノ件

ニ就キ互約ヲ為スヲ得又タ法則ヲ立ツルコトヲ得

第三十二条 日本各州ハ既ニ寇賊ノ來襲ヲ受ケ危害ニ迫ルニアラサレハ戰ヲ為スヲ得ス

第三十三条 日本各州ハ互ニ戰鬪スルヲ得ス争訟アレハ決ヲ連邦政府ニ仰ク

- 第三十四条 日本各州ハ現ニ強敵ヲ受ケ大乱ノ生シタルカ如キ危急ノ時期ニ際シテハ聯邦ニ報シテ救援ヲ求ルコトヲ得又々他州ニ向テ応援ヲ請フコトヲ得各州右ノ次第ヲ以テ他州ヨリ応援ヲ請ハレシ時真ニ其危急ニ迫ルヲ知ルトキハ赴援スルヲ得其費ハ聯邦ニ於テ之ヲ弁ス
- 第三十五条 日本各州ハ常備兵ヲ設置スルヲ得
- 第三十六条 日本各州ハ護郷兵ヲ設置スルヲ得
- 第三十七条 日本各州ハ聯邦ノ許免ヲ持タスシテ二州以上互ニ盟約ヲ結フヲ得ス
- 第三十八条 日本各州ハ二州以上協議ヲ以テ其境ヲ變革スルヲ得又々其境界ヲ合スルヲ得兎の事ルトキハ必ズ聯邦ニ通セサルヘカラス
- 第三十九条

第四編 日本国民及日本人民ノ自由權利

- 第四十条 日本ノ政治社会ニアル者之ヲ日本国民トナス
- 第四十一条 日本ノ人民ハ自ラ好シテ之ヲ脱スルカ及自ラ諾スルニ非サレハ日本人タルコトヲ削カルヘコトナシ
- 第四十二条 日本ノ人民ハ法律上ニ於テ平等トナス
- 第四十三条 日本ノ人民ハ法律ノ外ニ於テ自由權利ヲ犯サレサルヘシ
- 第四十四条 日本ノ人民ハ生命ヲ全フシ四肢ヲ全フシ形体ヲ全フシ健康ヲ保チ面目ヲ保チ地上ノ物件ヲ使用スルノ權ヲ有ス (レ脱)
- 第四十五条 日本ノ人民ハ何等ノ罪アリト雖モ生命ヲ奪ハサルヘシ
- 第四十六条 日本ノ人民ハ法律ノ外ニ於テ何等ノ刑罰ヲモ科セラレサルヘシ又々法律ノ外ニ於テ翹治セラレ逮捕セラレ拘留セラレ禁錮セラレ喚問セラルヘコトナシ
- 第四十七条 日本人民ハ一罪ノ為メニ身体汚辱ノ刑ヲ再ヒセラルヘコトナシ
- 第四十八条 日本人民ハ拷問ヲ加ヘラルヘコトナシ
- 第四十九条 日本人民ハ思想ノ自由ヲ有ス
- 第五十条 日本人民ハ如何ナル宗教ヲ信スルモ自由ナリ
- 第五十一条 日本人民ハ言語ヲ述フルノ自由權ヲ有ス
- 第五十二条 日本人民ハ議論ヲ演フルノ自由權ヲ有ス
- 第五十三条 日本人民ハ言語ヲ筆記シ板行シテ之ヲ世ニ公ケニスルノ權ヲ有ス
- 第五十四条 日本人民ハ自由ニ集会スルノ權ヲ有ス
- 第五十五条 日本人民ハ自由ニ結社スルノ權ヲ有ス
- 第五十六条 日本人民ハ自由ニ歩行スルノ權ヲ有ス
- 第五十七条 日本人民ハ住居ヲ犯サレサルノ權ヲ有ス
- 第五十八条 日本人民ハ何クニ住居スルモ自由トス又々何クニ旅行スルモ自由トス
- 第五十九条 日本人民ハ何等ノ教授ヲナシ何等ノ学ヲナスモ自由トス
- 第六十条 日本人民ハ如何ナル産業ヲ営ムモ自由トス
- 第六十一条 日本人民ハ法律ノ正序ニ抛ラスシテ室内ヲ探検セラレ器物ヲ開視セラルヘコトナシ
- 第六十二条 日本人民ハ信書ノ秘密ヲ犯サレザルベシ
- 第六十三条 日本人民ハ日本國ヲ辞スルコト自由トス

第六十四条 日本人民ハ凡ソ無法ニ抵抗スルコトヲ得

第六十五条 日本人民ハ諸財産ヲ自由ニスルノ權アリ

第六十六条 日本人民ハ何等ノ罪アリト雖モ其私有ヲ没収セラルヘコトナシ

第六十七条 日本人民ハ正当ノ報償ナクシテ所有ヲ公用トセラルコトナシ

第六十八条 日本人民ハ其名ヲ以テ政府ニ上書スルコトヲ得各其身ノタメニ請願オナスノ權アリ其公立会社ニ於テハ会社ノ名ヲ以テ其書ヲ呈スルコトヲ得

第六十九条 日本人民ハ諸政官ニ任セラルヘノ權アリ

第七十条 政府國憲ニ違背スルトキハ日本人民ハ之ニ従ハザルコトヲ得

第七十一条 政府官吏圧制ヲ為ストキハ日本人民ハ之ヲ排斥スルヲ得

政府威力ヲ以テ壇壝暴逆ヲ逞フスルトキハ日本人民ハ兵器ヲ以テ之ニ抗スルコトヲ得

第七十二条 政府恣ニ國憲ニ背キ擅ニ人民ノ自由權利ヲ殘害シ建國ノ旨趣ヲ妨クルトキハ日本人民ハ之ヲ覆滅シテ新政府ヲ建設スルコトヲ得

第七十三条 日本人民ハ兵士ノ宿泊ヲ拒絶スルヲ得

第七十四条 日本人民ハ法庭ニ喚問セラルヘ時ニ当リ詞訴ノ起ル原由ヲ聴クヲ得

己レヲ訴フル本人ト対決スルヲ得己レヲ助クル証拠人及表白スルノ人ヲ得ルノ權利アリ

第五編 皇帝及皇族摂政

第一章 皇帝ノ特權

第七十五条 皇帝ハ國政ノ為ニ責ニ任セス

第七十六条 皇帝ハ刑ヲ加ヘラルヘコトナシ

第七十七条 皇帝ハ身体ニ屬スル賦税ヲ免カル

第二章 皇帝ノ權限

第七十八条 皇帝ハ兵馬ノ大權ヲ握ル宣戰講和ノ機ヲ統フ他國ノ獨立ヲ認ムルト認メザルトヲ決ス

但シ和戰ヲ決シタルトキハ直ニ立法院ニ報告セザル可ラス

第七十九条 皇帝ハ平時ニ在リ立法院ノ議ヲ經スシテ兵士ヲ徵募スルヲ得

第八十条 皇帝ハ外国事務ノ總裁タリ諸外国交官ヲ命スルヲ得外国交際ノ礼ヲナスヲ得

但シ國權ニ關スル條約連盟ハ立法院ノ議ヲ經ルニ非レバ決行スルヲ得ズ

第八十一条 皇帝ハ人民ニ勲等賞牌ヲ与フルヲ得ス

位階ヲ与フルコトヲ得ス

第八十二条 皇帝ハ立法院ノ議ニ由ラザレバ通貨ヲ創造若クハ改造スルヲ得ス

第八十三条 皇帝ハ立法議會ノ承諾ヲ經テ聯邦ノ罪囚ヲ赦免シ及降減スルコトヲ得

聯邦規定ノ裁判ヲ他ノ裁判所ニ移シテ復審セシムルコトヲ得

法司ノ法權ヲ施スヲ沮格スルヲ得ス

聯邦執政ノ職務罪ニ係ル者ハ聯邦立法院ニ反テ恩赦ヲ与ヘ降減ヲナスコトヲ得ス

第八十四条 皇帝ハ立法議會ヲ延引スルヲ得立法院ノ承諾ナクシテ三十日ヲ越ユルコトヲ得ス

第八十五条 皇帝ハ諸兵備ヲ為スヲ得

第八十六条 皇帝ハ國政ヲ施行スル力ヲ為メニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第八十七条 皇帝ハ人民ノ權利ニ係ルコト國家ノ金錢ヲ費スベキコト國家ノ土地ヲ變スベキコト

ヲ專行スルヲ得ス必ス聯邦立法院ノ議ヲ經ルヲ要ス立法院ノ議ヲ經ザルモノハ実行スルノ効
ナシ

第八十八条 皇帝ハ聯邦政府ニ出頭シテ政ヲ秉ル

第八十九条 皇帝ハ聯邦政府ノ長タリ常ニ聯邦行政ノ權ヲ統フ

特定ニ定ムル者ノ外聯邦諸行政官吏ヲ命スルヲ得

第九十条 皇帝ハ聯邦司法庁ノ長タリ其名ヲ以テ法權ヲ行フ又法官ヲ命ス

第九十一条 皇帝ハ現行ノ法律ヲ廢シ已定ノ法律ヲ格置スルヲ得ス

第九十二条 皇帝ハ法ノ外ニ於テ租稅ヲ收ムルヲ得ス

第九十三条 皇帝ハ法ノ外ニ於テ立法院ノ議ヲ拒ムヲ得ス

第九十四条 皇帝ハ立法議會ト意見ヲ異ニシテ和セザルニ當リ一タヒ其議會ヲ解散スルコトヲ得
之ヲ解散シタルトキハ必ス三日内ヲ以テ其旨ヲ各選舉区ニ達シ且人民ヲシテ更ニ議員ヲ撰バ
シメ必ス六十日以内ヲ以テ議會ヲ復開セザル可ラズ一タヒ解散シタル上ニテ復開シタル議會
ハ同事件ニ就テ再ヒ解散スルコトヲ得ス

第九十五条 立法院ノ議決シタルコトニシテ皇帝之ヲ實施シ難シト為ストキハ議會ヲシテ之ヲ再
議セシムルヲ得此ノ如キトキハ皇帝ハ其由ヲ詳説陳弁セザル可ラズ

第九十六条 日本国皇帝ノ位ハ今上天皇睦仁陛下ニ屬ス

第九十七条 今上皇帝陛下位ヲ去レバ陛下ノ正統子孫ニ伝フ若シ子孫ナキトキハ尊族ノ親近ナル
者ニ讓ル左ノ次序ニ循フ

今上皇帝ノ位ハ第一嫡皇子及其統二世伝ス

第二嫡皇子及其統ナキトキハ嫡庶子及其統二世伝ス

第三嫡庶子及其統ナキトキハ庶皇子及其統二世伝ス

第四以上統ナキトキハ嫡皇女及其統二世伝ス

第五以上統ナキトキハ庶皇女二世伝ス

第六若シモ以上ノ嫡皇子孫庶皇子孫及其統ナキトキハ皇帝兄弟姉妹及其統二世伝ス

第八若シモ皇帝ノ嫡庶子孫兄弟姉妹伯叔父母及其統ナキトキハ立法院ノ議ヲ以テ皇族中ヨリ
撰ビ其嗣ヲ定ム

第九十八条 帝位繼承ノ順序ハ男ハ女ニ先チ長ハ幼ニ先チ嫡ハ庶ニ先ツ

第九十九条 非常特別ノコトアリ帝位繼承ノ順序ヲ變セントスルコトアレバ皇帝ト立法院トノ協
議ヲ經テ之ヲ行フベシ

第四章 皇帝ノ即位

第一百条 皇帝ノ即位ハ必ス立法議員列席ノ前ニ於テス

第五章 皇帝ノ婚姻

第一百一条 皇帝ノ婚姻ハ必ス立法院ノ議ヲ經ルヲ要ス

第一百二条 女帝ノ夫婿ハ王權ニ干渉スルヲ得ス

第六章 皇帝ノ歳俸

第一百三条 皇帝八年々国库ヨリ〇〇万円ノ俸ヲ受ク

第七章 皇帝ノ年齢

第一百四条 皇帝ノ歳未タ十八歳ニ至ラサル内ハ之ヲ未成年ト定ム十八歳ニ及ヘハ之ヲ成年ト定ム

第八章 摂政

第五十五条 皇帝未成年ノ間ハ摂政ヲ置ク

第六十条 皇帝長ク事故アリテ親ヲ政ヲ秉ルニ能ハサルトキハ摂政職ヲ置ク

第七十条 皇帝事故アリテ摂政職ヲ置クノ時ニ際シ皇太子成年ナルトキハ皇太子ヲ以テ摂政ニ当

ツ

第八十条 摂政ハ皇帝ノ名ヲ以テ王権ヲ行フ

第九十条 摂政ハ職制章程ハ立法院ニ於テ之ヲ立定ス

第十十条 摂政官ハ皇帝又ハ主相之ヲ指名シ立法院之ヲ定ム

第十一條 皇帝嗣ノ未成年中ニ其位ヲ讓ラントスルノ場合ニ於テハ予メ摂政官ヲ指名シテ立法院ノ議ニ附シ之ヲ定ムルコトヲ得

第九章 皇族

第十二條 皇太子ハ身体ニ関スル賦課ヲ免カル

第十三條 皇太子ハ年々国庫ヨリ支給ヲ受ク法章之ヲ定ム

第六編 立法権ニ関スル諸則

第一章 立法権ニ関スル諸則

第十四條 日本聯邦ニ関スル立法ノ権ハ日本聯邦人民全体ニ屬ス

第十五條 日本聯邦人民ハ皆聯邦ノ立法議政ノ権ニ与カルコトヲ得

第十六條 日本皇帝ハ日本聯邦立法権ニ与カルコトヲ得

第十七條 日本聯邦ノ法律制度ハ聯邦立法院ニ於テ立定ス

第十八條 聯邦立法院ハ全国ニ一ヲ置ク

第十九條 聯邦立法ノ権ハ限数人代議ノ制ヲ用ヒテ之ヲ行フ

第二章 立法院権限

第二十條 聯邦立法院ハ聯邦ニ関スル租税ヲ定ムルノ権ヲ有ス

第二十一條 聯邦立法院ハ聯邦ノ軍律ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 聯邦立法院ハ聯邦裁判所ノ訴訟法ヲ定ルヲ得

第二十三條 聯邦立法院ハ聯邦ニ関スル兵制ヲ議定スルコトヲ得

第二十四條 聯邦立法院ハ聯邦ノ名ヲ以テ国債ヲ起シ金錢ヲ借り及之ヲ償却スルノ法ヲ立ルコト

ヲ得

第二十五條 聯邦立法院ハ通貨ニ関スル法律ヲ立ルコトヲ得聯邦ニ對スル国事犯罪律ヲ立ルヲ得

第二十六條 聯邦立法院ハ郵便ノ制ヲ立ルヲ得

第二十七條 聯邦立法院ハ聯邦ノ通貨ヲ増減改造スルノ議ヲ定ルコトヲ得

第二十八條 聯邦立法院ハ聯邦ノ共有物ヲ所置スルヲ得

第二十九條 聯邦立法院ハ聯邦政府ノ保障ヲ為ス銀行会社ノ規則ヲ立ルコトヲ得

第三十條 聯邦立法院ハ切要ナル調査ニ関シ聯邦ノ官吏ヲ議場ニ提喚スルノ権アリ又聯邦人民ヲ召喚スルノ権アリ又聯邦人民ヲ召喚シテ事情ヲ質スルコトヲ得

第三十一條 聯邦立法院ハ憲法ノ許ス所ノ權利ヲ行フ力ヲ為メニ諸規則ヲ立ルヲ得

第三十二條 聯邦立法院ハ外国人并ニ国外ノ者ニ関スル規則ヲ立ツルコトヲ得

第三十三條 聯邦立法院ハ聯邦行政政府諸執行ノ職務ニ関スル罪科並ニ国事犯罪ヲ彈劾論告シ正的

ノ法院ニ求刑スルノ権ヲ有ス

第百卅四条 聯邦立法院ハ本院議員ノ權任ヲ監査スルノ權アリ

第百卅五条 聯邦立法院ハ議員ニシテ其職分ニ関スル命令規則ニ違背スル者ヲ処分スルヲ得

第百卅六条 聯邦立法院ハ既住ニ湖ルノ法律ヲ立ルヲ得ス

第百卅七条 聯邦立法院ハ外国ト条約ヲ結ヒ連盟ヲ為スヲ決定スルノ權アリ

但シ國權ノ獨立ヲ失フノ契約ヲナスヲ得ス

第百卅八条 聯邦立法院ハ行政部ニ對シ推問ノ權ヲ有ス

第三章 立法議員ノ權力

第百卅九条 聯邦立法議員ハ其職ヲ行フニ附キ發言シタル意見ニ就テ糾治檢索セラルヘコトナシ

第百四十条 聯邦立法議員ハ本院ノ許可ヲ經スシテ開会ノ間並ニ其前後三十日間ハ要領ノ為ニ拘

引拘留セラルヘコトナシ刑事ノ為ニ掌捕セラレルヘナシ

但シ現行犯ハ此限ニアラス

第四章 議員選挙及被選挙ノ法

第百四十一条 聯邦議員ハ聯邦人民之ヲ直撰ス

第百四十二条 聯邦議員ハ一州各七名ト定ム

第百四十三条 現ニ租税ヲ納メサル者現ニ法律ノ罪ニ服シ居ル者政府ノ官吏ハ議員ヲ選挙スルコ

トヲ得ス

第百四十四条 現ニ法律ノ罪ニ服シ居ル者政府官吏ハ議員ニ撰挙セラルヘコトヲ得ス

第百四十五条 日本各州ハ何レノ州ノ人ヲ撰挙シテ議員トナスモ自由トス

第五章 議員ノ任期

第百四十六条 聯邦ノ立法議員ハ三年ヲ一期トシ三年毎ニ全員ヲ改撰ス

第六章 議員ノ償給旅費

第百四十七条 聯邦ノ立法議員ハ年々国库ヨリ三千元ノ手当金ヲ受ク又其會議ニ出ツル毎ニ往

復旅費ヲ受ク

第八章 立法會議

第百四十九条 聯邦ノ立法會議ハ毎年一回之ヲ為ス其ノ他事ナキニ於テハ十月第一ノ月曜日ニ之

ヲ開ク

第百五十条 議事ノ多少ニ依リ皇帝ハ時々日ヲ伸縮スルヲ得然レトモ議員過半数ノ同意アルト

キハ皇帝ノ命アリト雖モ議會其伸縮ヲ定ム

第九章 立法會議開閉集散

第百五十一条 非常ノ事件アリテ會議ヲ要スルトキハ皇帝ハ臨時会ヲ開クコトヲ得

第百五十二条 聯邦會議ノ開閉ハ皇帝之ヲ司ル

第百五十三条 毎年ノ常会ハ皇帝ノ命ナシト雖モ聯邦議員ハ自ラ会シテ議事ヲ為スコトヲ得

第百五十四条 皇帝崩去ノ時ニ在リテハ聯邦議會ハ臨時会ヲ開ク

第百五十五条 現在議員ノ年期已ニ尽クルノ際未タ交代ス可キノ議員ノ撰挙セラレサルノ間ニ於

テ皇帝崩スルコトアルキハ前期ノ議員集合シテ新議員ヲ生スルマデ議會ヲ為ス事ヲ得

第百五十六条 立法會議皇帝ノ為ニ解散セラレ皇帝國法ノ通りニ復立セザル時ハ解散セラレタル

議會ハ自ラ復会スルヲ得

第十章 會議規則

第百五十七条 聯邦立法議案ハ立法院國王俱ニ之ヲ出スコトヲ得

第五十八條 聯邦立法議會ノ議長ハ立法院ニ於テ議員ヨリ公撰ス

第五十九條 凡會議ハ議員全數ノ過半数ノ出席ナレハ之ヲ開クコトヲ得

但シ同一事件ニ付再度以上集會ヲ催シタルキハ過半数ノ出席ナシト雖モ議事ヲ為スコトヲ得
第六十條 特別ニ定メタル規則ナキ事件ノ議事綜テ出席員過半数ノ議ヲ以テ決定ス而議同數ナルコトアルトキハ議長ノ傾向スル所ニ決ス

第六十一條 聯邦ノ立法會議ハ公ニ傍聽ヲ許ルス其特異ノ時機ニ際シテハ秘密ニスルヲ得

第十一章 立法院ノ決議ヲ國法トナスニ就テ皇帝ト相關スル規則

第六十二條 聯邦立法院ニテ決定シタル成說ハ皇帝ニ呈シテ承認ヲ得ルヲ必トス

第六十三條 皇帝立法院ノ成議ヲ受取ラハ三日以内ニ必ス其答ヲ為サ、ル可ラス若シ其熟考セント要スルコトアラハ其趣ヲ申通シテ二十日以内ニ可否ヲ示ス

第六十四條 聯邦立法院ノ決定スル所ニシテ皇帝準許セサルコトアルキハ立法院ヲシテ之ヲ再議セシム

立法院之ヲ再議シタルトキハ議員總數過半以上ノ同意アルヲ見レバ更ニ奏シテ必ス之ヲ行フニ定ム

第七編 行政權ニ関スル諸則

第一章 行政權ニ関スル大則

第六十五條 日本聯邦行政權ハ日本皇帝ニ屬ス

第六十六條 日本聯邦ノ行政府ハ日本皇帝ニ於テ統轄ス

第六十七條 日本聯邦ノ行政權ハ聯邦行政府ニ於テ開施ス

第六十八條 皇帝ノ行政權ヲ行フニ就テハ國家ニ一ノ主相ヲ置キ又諸政ノ類ヲ分テ其各省ヲ設ケ其各主務官ヲ命ス

第六十九條 皇帝ヨリ出ス諸件ノ布告ハ主相ノ名ヲ署シ當該ノ本任長官副署シテ之ヲ發ス執政ノ副署ナキモノハ実行スルノ効ナシ

第七十條 皇帝ヨリ發スル諸件ノ布告ニ就テハ主相及當該ノ本任長官其責ニ任ス但シ執政ノ副署ナキモノハ執政ハ責ニ任セス

第二章 行政官

第七十一條 聯邦行政官ハ皇帝ノ命ニ從フテ其職務ヲ取ル

第七十二條 主相ハ皇帝ニ奏シテ諸省ノ長官ヲ任命スルヲ得

第七十三條 聯邦執政ハ議案ヲ草シテ立法議會ニ提出スルヲ得又議會ニ參スルヲ得決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第七十四條 聯邦行政官ハ聯邦立法議員ヲ兼ヌルヲ得ス

第七十五條 聯邦行政官ハ其執行スル政務ニ就キ皇帝並ニ國民ニ對シテ責ニ任ス

其一執政ノ分テ為セシコトハ當該ノ一執政乃チ其責ニ任ス其衆執政分テ為セシコトハ衆執政連帶シテ其責ニ任ゼス

第七十六條 聯邦行政府官タル者職務上ノ罪犯過失ニ就テ彈劾セラレ糾問セラル、間ハ其ノ職ヲ辭スルヲ得ス

第三章 行政府

第七十七條 聯邦行政府ハ毎歲國費ニ関スル議案ヲ草シ立法議會ニ出ス

第一百七十八条 聯邦政府ハ毎歳国費決算書ヲ製シ立法議院ニ報ス

第四章 統計局

第一百七十九条 国家歳出入ノ予算表精算表ハ行政政府統計局ニ於テ之ヲ調達ス

第一百八十条 統計局ノ長官ハ立法院之ヲ撰任ス

第一百八十一条 統計局ハ国家ノ出納會計ヲ検査觀察スルコトヲ得

第一百八十二条 統計局ハ行政各部ヨリ會計ニ関スル一切ノ書類ヲ捨聚スルコトヲ得

第八編 司法権ニ関スル諸規則

第一章 司法権ニ関スル大則

第一百八十三条 聯邦司法権ハ法律ニ定メタル法衙ニ於テ之ヲ実施ス

第一百八十四条 特別ノ定メナキ民事刑事ノ裁判詞訟ハ司法権ノ管理ニ歸ス

第一百八十五条 非常法衙ヲ設ケ非常法官ヲ撰テ臨時ニ司法権ヲ行フコトヲ得ス

第一百八十六条 軍人ノ軍律ヲ犯スモノハ其軍ノ裁判所ニ於テ其軍ノ律ニ処ス

第二章 法官

第一百八十七条 凡ソ聯邦法官ハ立法議院ニ於テ任免ス

第一百八十八条 法官ハ俸給アル職任ヲ兼ヌルコトヲ得ス立法議院ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第三章 法衙

第一百八十九条 聯邦法衙ハ(法衙カ) 憲ニ遵フノ外不羈ニシテ他ノ管轄ヲ受ケス

第四章 裁判

第一百九十条 凡ソ裁判ハ理由ヲ附シ所以ヲ明ニス

第一百九十一条 民事裁判ハ代言ヲ許ス

第一百九十二条 刑事裁判陪審ヲ設ケ弁護人ヲ許ス

第一百九十三条 裁判ハ衆人ノ傍聴ヲ許シテ公ケニ之ヲ行フ風俗ヲ害スル事件ニ限りテ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第五章 高等法院

第一百九十五条 高等法院ハ執政ノ職務ニ係ル事案ヲ審判ス

第一百九十六条 高等法院ハ皇王ニ対スル犯罪聯邦ニ対スル犯罪ノ如キ通常犯罪ノ他ナル非常ノ大

犯罪ヲ審明ス

第九編 土地

第一百九十七条 国家土地ハ全国家ノ共有トス

第一百九十八条 国家ノ土地ハ立法院ノ議ニ非ラサレバ一モ動カス事ヲ得ス

第一百九十九条 国家ノ土地ハ立法院ノ議ニ非サレバ之ヲ他国ニ売り若クハ譲リ若クハ交換シ若ク

ハ抵当ニ入ルヽコトヲ得ス

第十編 租税

第二百条 聯邦ノ租税ハ各州ヨリ課ス其額ハ法律之ヲ定ム

第二百一条 聯邦ノ租税ハ聯邦立法院ノ議ヲ經ルニ非ザレバ一モ徴収スルヲ得ス

第二百二条 聯邦ノ租税ハ毎年一回立法院ニ於テ議定ス

第十一編 国金

第二百三条 聯邦ノ金銭ハ憲法ニ非レハ之ヲ使用シ之ヲ消費スルヲ得ス

第十二編 財政

第二百四条 憲法ニ依ルニ非レバ政府ハ国債ヲ起スヲ得ス

第二百五条 憲法ニ依ラザレバ政府ハ諸債ノ保(附帯)ニ立ツコトヲ得ス

第十三編 會計

第二百五条 (イ) 毎年一切ノ出納ハ預算表並ニ掲ケテ必ス国家ニ告示ス

第十四編 甲兵

第二百六条 国家ノ兵権ハ皇帝ニ在リ

第二百七条 国家ノ大元帥ハ皇帝ト定ム

第二百八条 国家ノ將軍ハ皇帝之ヲ撰任ス

第二百九条 常備兵ハ法律ニ從ヒ皇帝ヨリ民衆中ニ募リテ之ニ応スルモノヲ用ユ

第二百十條 常備軍ヲ監督スルハ皇帝ニ在リ非常ノコトアルニ際シテハ皇帝ハ常備軍ノ外ニ於テ

軍兵ヲ募リ志願ニ随フテ之レヲ用フルヲ得

第二百十一條 他国ノ兵ハ立法院ノ議ヲ經ルニ非ラサレハ雇使スルヲ得ス

本編初條ニ軍兵ハ国憲ヲ護衛スルモノトス
圖ク見込ミ

第十五編 外国人帰化

第二百十二條 日本国ハ外国人ノ帰化ヲ許ス

第十六編 特法

第二百十三條 内外戦乱アル時ニ限り其地ニ於テハ一時人身自由住居自由言論出版自由集会結社

自由等ノ權利ヲ行フ力ヲ制シ取締ノ規則ヲ立ツルコトアルベシ其時機ヲ終ヘハ必ス直ニ之ヲ

廢セサルヲ得ス

第二百十五條 戦乱ノ為ニ已ムヲ得ザルコトアレハ相当ノ償ヲ為シテ民人ノ私有ヲ収用シ若クハ

之ヲ滅尽シ若クハ之ヲ消費スルコトアルベシ其最モ急ニシテ予メ本人ニ照会シ予メ償ヲ為ス

事暇ナキトキハ後ニテ其償ヲ為スヲ得

第二百十六條 戦乱アルノ場合ニハ其時ニ限り已ムヲ得サルコトノミ法律ヲ置格スルコトアルヘ

シ

第十七編 鉄道電信陸路水利利用

第二百十七條 新ニ鉄道ヲ造リ電信ヲ架シ陸路ヲ啓キ水利ヲ通スル等ノコトハ通常會議ニ於テ之

ヲ議スルヲ得ス立法議院特別ノ會議ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得議員過半数ノ同意アルモノハ之ヲ

行フコトヲ得

第十八条 憲法改正

第二百十八條 日本國憲法ヲ添刪改正スルトキハ必ず立法會議ニ於テ之ヲ定ム

第二百十九條 憲法改正ノ議事ハ其日ノ出席議員數如何ニ關スル議員惣數ノ過半数ノ同意ニ非ラサレバ決定スルヲ得ス

附則

第二百二十條 日本國憲法施行ノ日ヨリ一切ノ法律條例布告等ノ國權ニ抵触スルモノハ皆之ヲ廢ス

(明治十四年八月起草稿本)

右の本文は牧野伸顯文書所収本をそのまま採ったものであるが、『明治文化全週』所収本により、左のとおり補訂する、

〔第六編〕

第七章 議員の制限

第二百四十八條 聯邦ノ立法議員ハ聯邦行政官ヲ兼ルヲ得ス

第八章 立法會議ノ時日

〔第八編第五章〕

第二百九十四條 諸法衙ノ外日本全國ニ一ノ高等法院ヲ置ク